

水沢高等女学校における水路部暦計算動員の記録と証言

○馬場 幸栄¹ (1.国際日本文化研究センター)

第二次世界大戦中、水路部は各地の女学校において生徒を動員し、天体暦の計算作業や印刷作業に従事させていた。そうした女学校のひとつに岩手県の水沢高等女学校があることは、水路部および緯度観測所（国立天文台水沢VLBI観測所の前身）の記録からも確認できる。しかし、水沢高等女学校の後身である水沢高等学校では当時の動員の詳細に関する史料が見つかっていない。おそらく、進駐軍による接収を怖れて終戦直後に廃棄ないしは隠匿されたためと考えられる。そのため、水沢高等女学校における水路部暦計算動員の実態はこれまで不明であった。そこで、水沢とその周囲で読まれている地方紙に水路部動員に関する記事を掲載し、情報提供を呼び掛けた。すると、水沢高等女学校で水路部動員に参加していた生徒の日記が存在することが判明した。また、同校の生徒として水路部動員に参加していたという女性数名にお会いし、インタビューを行うことができた。それらの記録や証言によると、水沢高等女学校では昭和20年3月1日に水路部の入部式が開かれて同校の2年生が海軍軍属として動員されたこと、水路部から生徒たちに算盤、ペン軸、物差しが配られて主に数字の書き方の練習や計算作業に従事していたこと、『簡易天測表』に数字を書き込む作業もあったことがわかった。新年度に入り3年生となってからも動員は続き、東京その他の都市部から疎開してきた女学生たちも動員され、「分隊」に配備された。なお、動員された生徒たちには毎月報酬が支払われ、そこから授業料や父兄会費等が徴収されていた。そして、終戦を迎えると、8月20日頃には動員解散が決定され、水沢高等女学校における水路部動員は終了している。戦時中の水路部動員について知る人はいまや少なく、これらの情報は積極的に収集・記録を行わないと忘れられてしまう。戦争と天文学の歴史を後世に伝えていくために、水沢のみならず、各地の水路部動員に関する記録・証言のさらなる収集を進めていく必要がある。